

レセプトデータを用いた病院規模ごとの高齢者悪性腫瘍に対する放射線治療の評価

奈良県立医科大学公衆衛生学講座
修士課程2年
村上淳基

背景

がん患者の治療方法は基本的に手術、化学療法、放射線治療の3種類がある。

そのなかで、放射線治療は高齢者に対しても安全に有効な治療を行うことが可能であると報告されている。

目的

しかし、これらの報告の多くは、大規模病院、単施設のみデータであり、小規模病院を含めた病院規模での報告は乏しい。

奈良県の国保後期レセプトデータベース(KDB)を用い、病院規模ごとにおける放射線治療内容の違いを明らかにし、高齢がん患者に対する放射線治療の効果を検討した。

方法

- ・期間
2013年4月～2016年3月
- ・使用データ
医科診療行為で体外照射を示す「M001」から始まるレセプトがある患者

方法

体外照射を受けた患者で最も早い時期に行われた治療を初回治療とした。

初回とした治療が継続治療である可能性を除外するために、同一患者に関して初回治療前1ヶ月に放射線治療をおこなっていない患者のみを対象とした。

方法

- ・年齢
治療開始時、85歳以上の高齢者(85歳以上群)、75-84歳であった高齢者(75-84歳群)
- ・病院規模
病床数から500床以下、500床以上
- ・検討項目
患者背景、疾患部位、照射方法、生存率
疾患部位は初回治療時のICD-10コードから抽出し、重複癌と 考えられる場合には、ICD10 コードの数値が小さい癌腫を優先して抽出した。

結果 患者背景

奈良県KDBにおいて、2013年4月から2016年3月までに体外照射で放射線治療を受けた75-84歳の患者は1570人、85歳以上の患者は322人であった。

結果 患者背景

	75-84歳群		85歳以上群	
	500床以下	500床以上	500床以下	500床以上
患者数	702	868	176	146
性別				
男	481(69%)	618(71%)	111(63%)	85(59%)
女	221(31%)	250(29%)	65(37%)	60(41%)
入院	452(64%)	491(57%)	118(67%)	86(59%)
入院外	250(36%)	377(43%)	58(33%)	60(41%)

